

第180回新潟循環器談話会例会

日 時 平成元年9月9日(土)

テーマ演題「肺高血圧症」

1) 肺高血圧症を伴う Down 症候群の2症例

渡辺 渡・松井 俊晴 (新潟県立中央病院)
丸山 茂 (小児科)

① 8歳女児. Eisenmenger complex syndrome を呈した VSD を伴う Down 症候群, 冬になると自宅酸素吸入を必要とする. ② 1カ月半女児. 胎生41週3日, 3270gr で出生した Down 症候群児. 生下時よりチアノーゼがあり, 右室肥大, 肺高血圧が考えられた例. 先天性血友病を合併して生後42日めに死亡した. 剖検はならず, 肝針生検針によるネクロブシー (所謂) のみ. Down 症候群と Hypertensive Pulmonary Vascular Disease について考察して報告する.

2) 心房中隔欠損症による Eisenmenger 症候群で手術適応と考えられた1例

大島 満・大塚 英明 (新潟こばり病院)
土谷 厚・矢沢 良光 (循環器内科)

心房中隔欠損症による Eisenmenger 症候群で手術適応と考えられた症例を経験したので報告する. 症例は43歳の男性で, 小学校での健診で心疾患を指摘されていたが放置していた. 学校での体育にも普通に参加し, 仕事にも支障なかったが, 2年程前より階段昇降時に息切れを自覚するようになった. 本年, 会社の健診で胸部X線および心電図に異常を指摘され, 精査目的で当科に入院した. 心エコー上, 心房中隔欠損と右→左シャント, いわゆる Eisenmenger 症候群を疑われ, 心臓カテーテル検査を施行. Qp/Qs=0.93, Rp/Rs=0.75, PAR=16.7 単位, 肺動脈圧=80/37 (平均51) との結果であったが, 手術禁忌と断定し得ず, 再度心臓カテーテル検査施行. 100%酸素負荷, 塩酸トラゾリン投与により肺血管抵抗の可逆性が認められ, 心房中隔欠損試験閉鎖により血行動態の悪化を認めなかったため, 手術適応ありと考えられた.

3) 開心根治術後の呼吸不全に対し ECMO 使用により救命しえた完全型 ECD+PH の1例

藤田 康雄・宮村 治男
金沢 宏・矢沢 正知
榛沢 和彦・小熊 文昭
篠永 真弓・岡崎 裕史 (新潟大学)
上野 光夫・江口 昭治 (第二外科)

1歳男児, 完全型心内膜床欠損症に対し, ENDOCARDIAL CUSHION PROSTHESIS を用いた One patch method による心内修復を行なった. 術直後より急性呼吸不全に陥ったため, 体外循環回路を用いて7時間の ECMO を行い救命し得た. 術後も呼吸不全が持続し, 不整脈が頻発したため管理に難渋したが, 第27病日に呼吸器より離脱した. ECMO は主に胎児循環遺残や, 先天性横隔膜ヘルニアなどに併発する新生児急性呼吸不全に対し用いられ, また開心術後においてはほとんどが循環不全に対して用いられている. 開心術後でも可逆的な呼吸不全と判断される症例においては, 体外循環回路を用いた ECMO は簡便かつ有用な治療手段と考えられる.

4) 小児原発性肺高血圧症例の検討

佐藤 勇・福島 英樹 (新潟大学小児科)
佐藤 誠一 (国立療養所
新潟病院小児科)
竹内 衛 (立川綜合病院
小児科)

当科で経験した原発性肺高血圧症例5例について検討した. 発症時年齢は0歳2例, 1歳1例, 3歳1例, 13歳1例であった. 発症時症状は, 心不全3例, 失神発作1例, 学校検診1例であった. 全例心臓カテーテル検査を行い診断した. 死亡例は3例経験した. 1例は乳児期発症例で, 呼吸管理下で長期にわたり加療をつづけたが, tube trouble による brain damage のため失った. 3歳発症の1例は失神発作は control し得たが, 頻回にくり返す PSVT のため失った. 13年経過を追えた1例も, 進行する心不全のため失った. Follow up catheter 及び, 超音波血流検査により, 肺高血圧の進行を確認しえた例を呈示した. また全例のカテーテル検査結果を呈示した.

5) 肺高血圧症に対するプロスタグランジン

E1 の薬効について

小池 隆司・三井田 孝 (新潟大学)
和泉 徹 (第一内科)
荒井 裕 (済生会川口病院
循環器内科)

原因不明の肺高血圧症患者4例に対して PGE1 によ